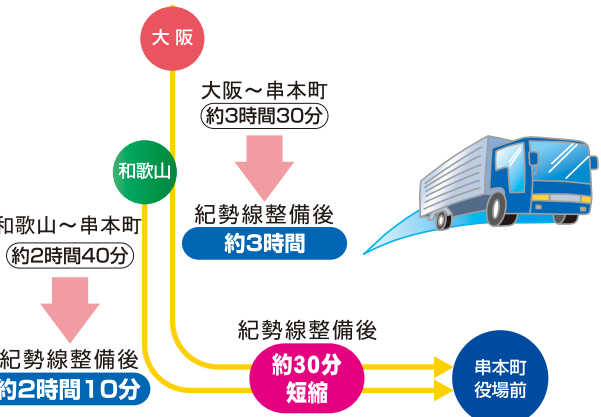


時間短縮で交通も活発に

紀勢線（田辺～すさみ）が整備されると、京阪神圏と紀南地域が高規格幹線道路で結ばれることになり、**各都市と紀南地域との移動時間が短縮**されます。これにより、京阪神圏や和歌山県北部との交流、また、紀南地域内の交流が活発化することが予想され、暮らしが便利になることや経済の発展に期待が寄せられています。

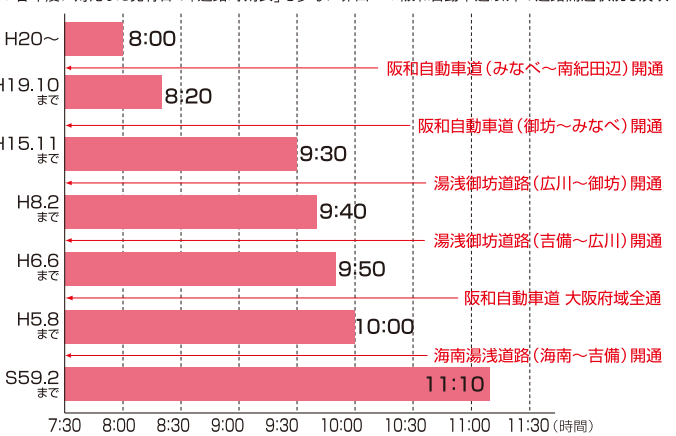
■紀勢線（田辺～すさみ）の整備前後で変わる各都市からの時間距離
※H22年道路交通センサスにより算出



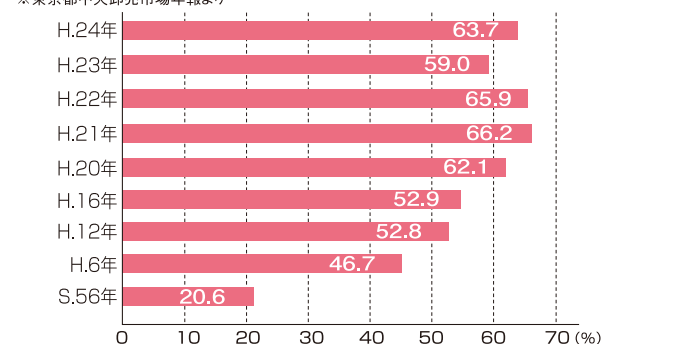
地域経済に貢献します

阪和自動車道などの整備に従い、梅産地と東京との距離は確実に縮まってきました。それに伴い、**紀州梅のブランド化が進み、市場への出荷量も大幅に増加**しています。

■梅産地（田辺市）～東京までの所要時間の推移
※各年度に対応した発行日の「道路時刻表」を参考に算出 ※阪和自動車道以外の道路開通状況も反映



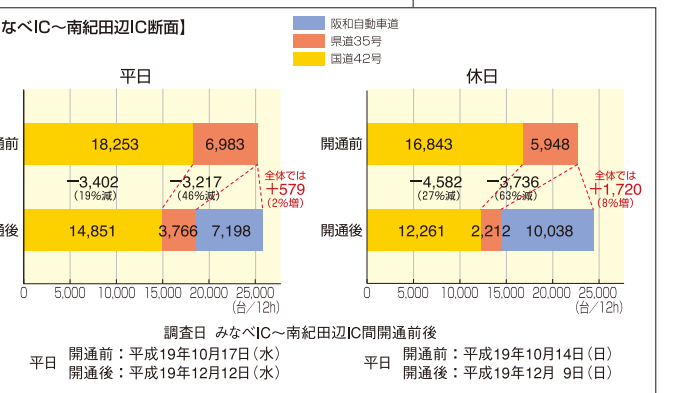
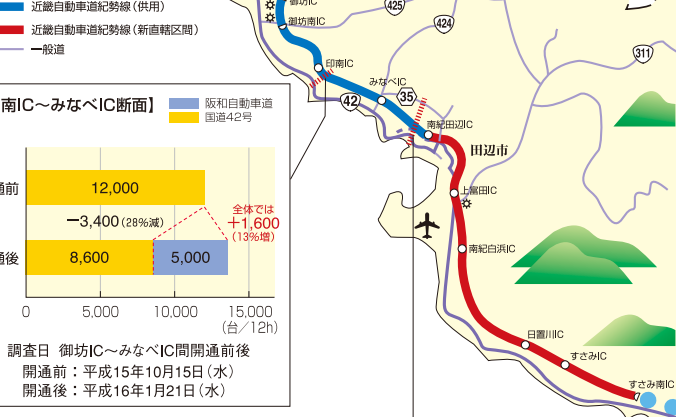
■東京市場における「うめ」の和歌山県産の占める割合の推移
※東京都中央卸売市場年報より



交通渋滞の緩和

阪和自動車道の整備により、地域全体の交通量は増えましたが、国道42号の交通量は大幅に減少しました。特に夏の観光シーズンには、頻繁に交通渋滞が起きる田辺市や白浜町なども、紀勢線の整備により、**国道42号の渋滞が緩和**されると期待されています。

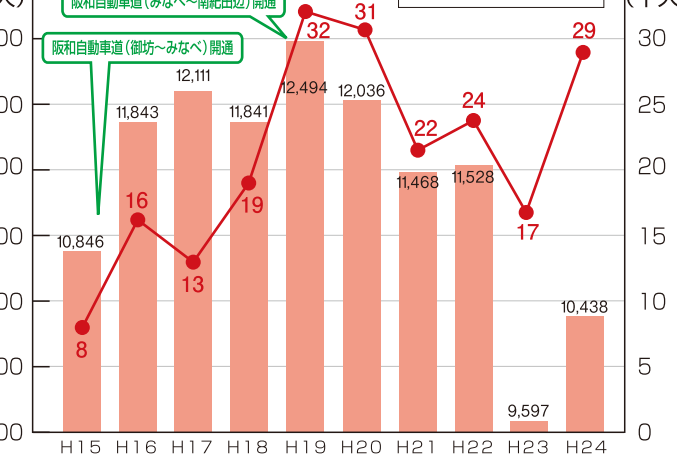
■近畿自動車道紀勢線の交通量の変化（みなべIC～南紀田辺IC間の整備前後）
出典：紀南河川国道事務所資料



観光客の増加

交通渋滞の緩和と同様に、阪和自動車道の整備は観光客の増加にも役立っています。紀勢線（田辺～すさみ）が整備されると、京阪神圏や和歌山県北部からの交通が便利になり、より一層、紀南地域を訪れる人が増えると期待されます。

■紀南地域観光客数の推移
出典：紀南河川国道事務所資料



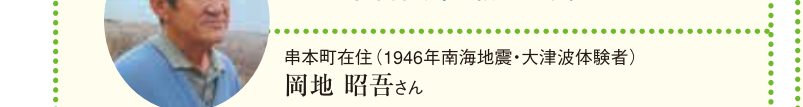
近畿自動車道紀勢線ってどんな道路？

新直轄方式※で高速道路が整備されます

近畿自動車道紀勢線は、大阪府松原市を起点とし、和歌山県和歌山市及び田辺市を經由し、三重県多気郡多気町に至る延長約340kmの高速自動車道です。この路線は、京阪神と紀南を結ぶ幹線道路として、輸送時間の短縮や一般道の混雑緩和を図り、地域相互の振興と発展に寄与することをめざしています。現在、紀勢線は一般所有の湯浅御坊道路と合わせ、松原JCT～南紀田辺IC間の約130kmが自動車専用道路でつながっています。今後は、南紀田辺IC～すさみ南IC間が国土交通省による新直轄方式※で整備されることが決定しており、当該区間整備後は無料の自動車専用道路として通行することができま

INTERVIEW

災害に強く利便性の高い道路の誕生。それが紀南住民の願いです。



串本町在住（1946年南海地震・大津波体験者）
岡地 昭吾さん

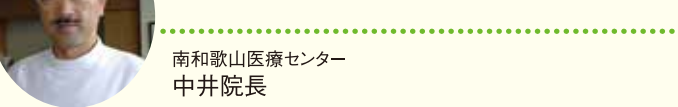
1946年12月21日に発生した南海地震は、揺れと津波によって、紀南地域に大きな被害をもたらしました。当時13歳だった私は、その日の恐怖を今も鮮明に覚えています。今と比べて圧倒的に自動車が少ない当時でさえ、道路の被害は暮らしに大きな影響を与えたから、車社会の現代ではなおさらですね。災害を想定して、信頼の置ける道路の確保が必要でしょう。その意味からも、紀勢線が一日も早く紀南地方に延ばされることを心より願っています。

※新直轄方式とは

高速道路株式会社による整備の補完措置として、必要な高速道路を建設するため、国と地方の負担（国：地方＝3：1）による新たな直轄事業です。

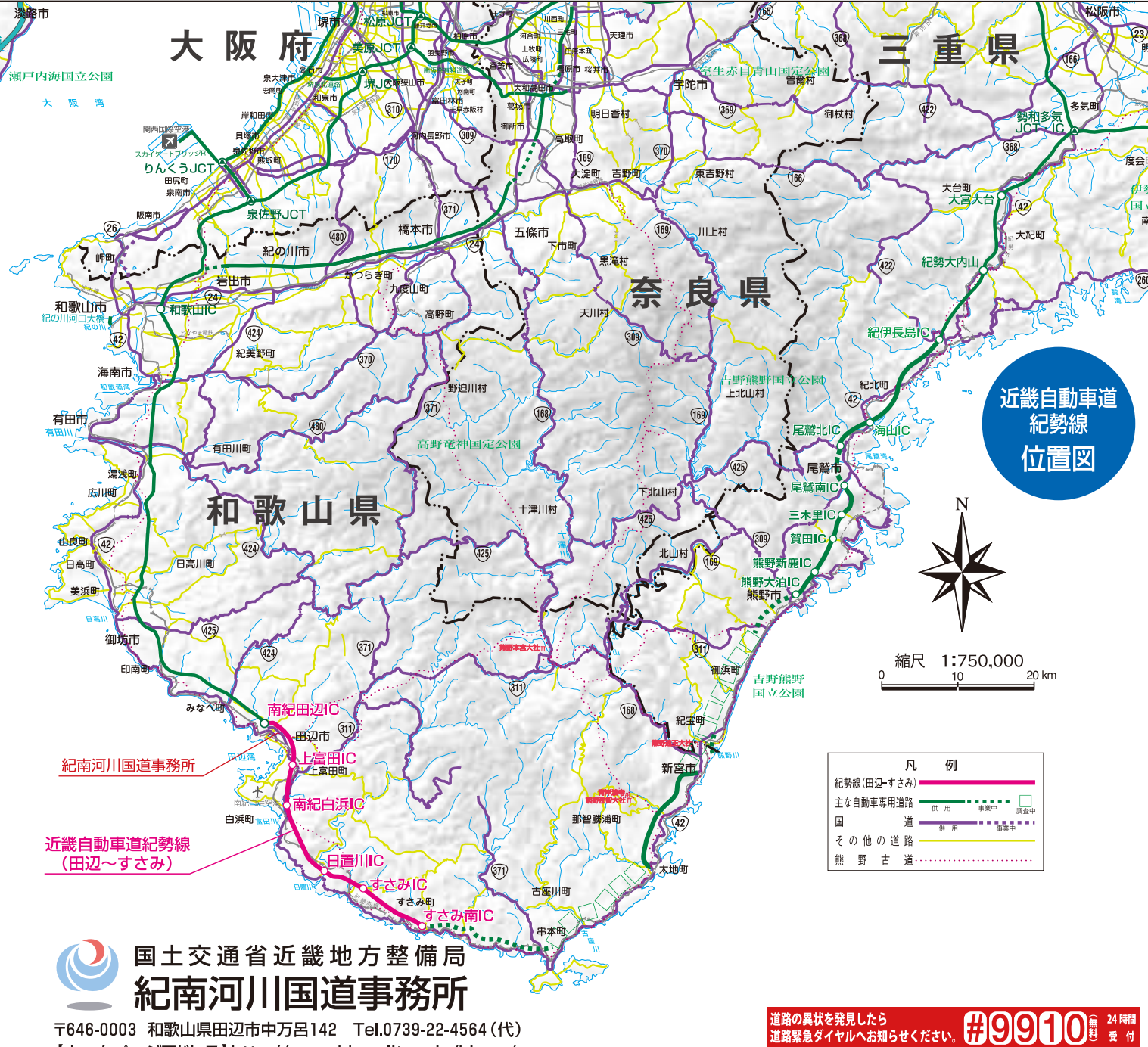
INTERVIEW

高速道路の延伸は、災害時だけでなく、日常の医療の充実に大きな効果をもたらします。



南和歌山医療センター
中井院長

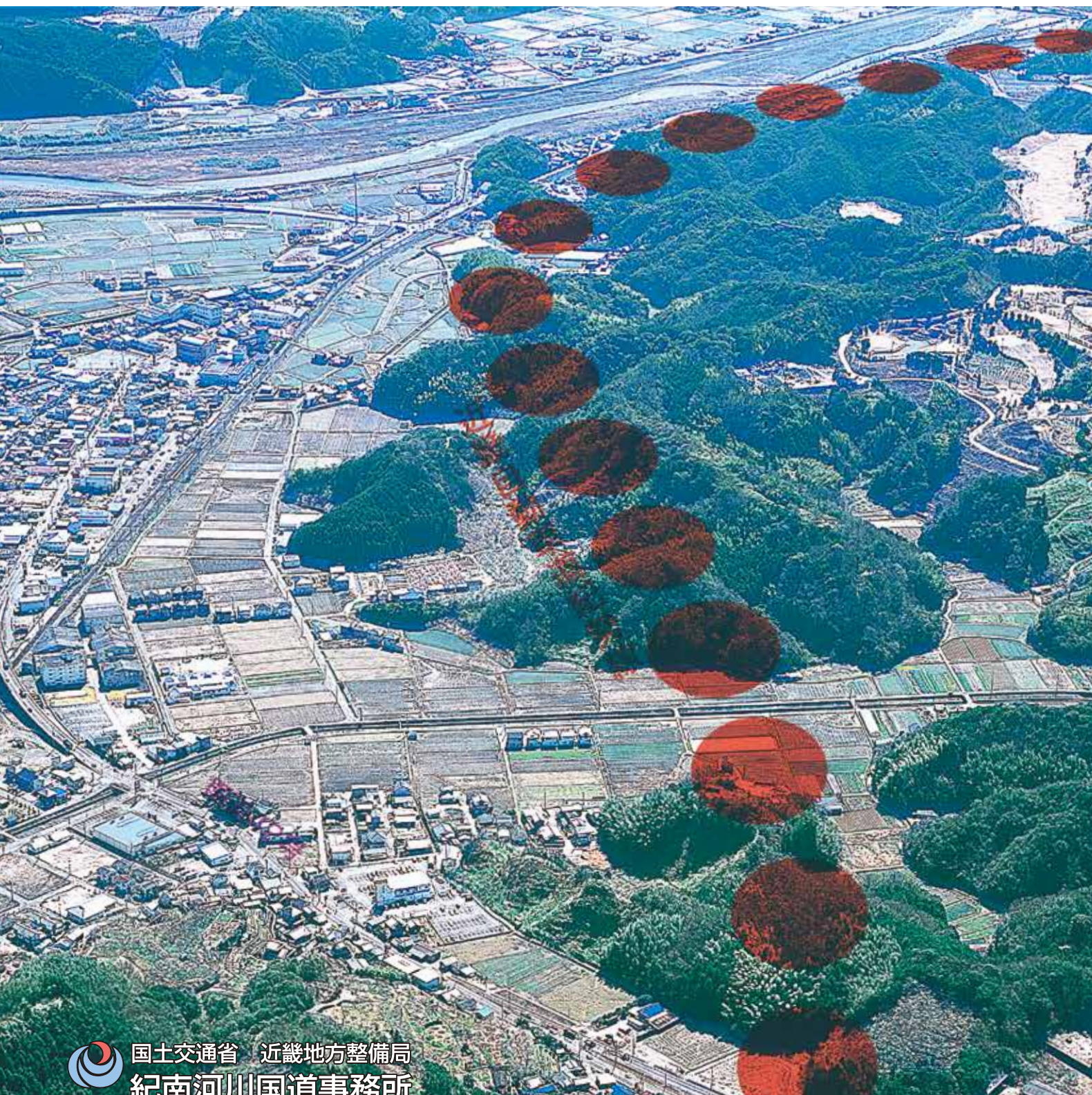
南和歌山医療センターは、和歌山県の災害拠点病院に位置付けられています。また、日常的にも串本方面から多くの患者さんに利用して頂いており、高速道路の延伸により、短時間で安全に搬送、入院が出来るようになれば、日常的な患者さんの負担軽減に大きな効果があると期待しています。多くの人命を救うため、ドクターヘリなどの活用も進んでいますが、道路交通網の充実も紀南地方の医療資源をより有効に活用するという観点で非常に大切なと思っています。



近畿自動車道 紀勢線 (田辺～すさみ)

「紀南」の個性と魅力がさらに引き立つ道づくり

命の道つながる紀勢線

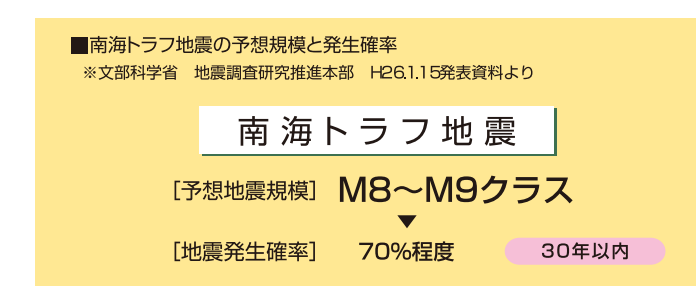
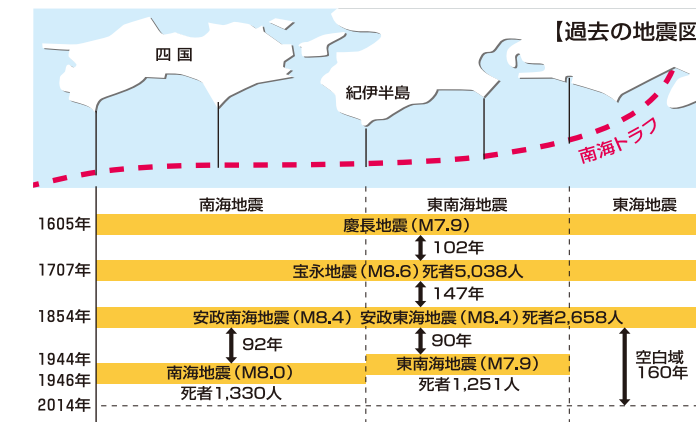


地域を支える「命の道」

災害に備える

南海トラフの巨大地震

地震の発生確率は非常に高く大きな被害があると予想されています。

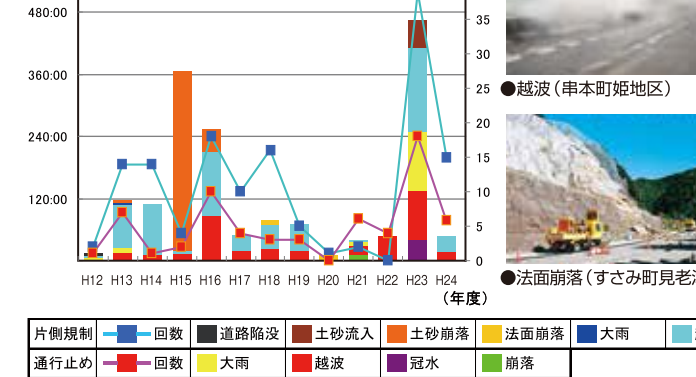


自然災害が多い

台風などによる

国道42号が通行止めになると代わりとなる幹線道路がありません。

■国道42号の規制実施時間（左目盛）と交通規制回数（右目盛）
〔紀南河川国道事務所内〕



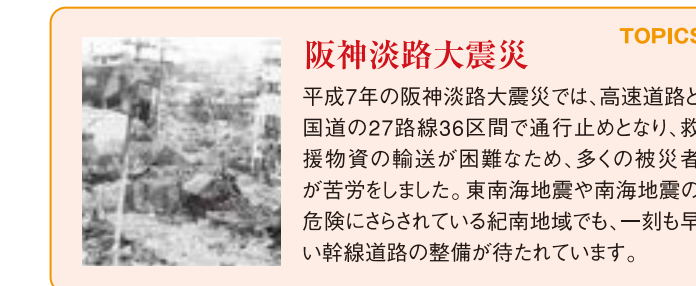
代替ルートとしての機能

国道42号は津波や越波、土砂災害の影響を受けやすく、台風や地震があると複数の箇所での通行止めになることが予想されます。紀南地域には、ほかに幹線道路がないため、自然災害時の移動に著しい制約を受けることになります。

■越波や崖崩れで通行不能の一般道と救急車やトラックがスムーズに通過する高規格道路



紀勢線（田辺～すさみ）は、最新の道路橋示方書で設計されているので、阪神淡路大震災並の地震にも耐えうる構造となります。



救急医療にも力を発揮

紀勢線（田辺～すさみ）の整備により、三次救急医療施設（南和歌山医療センター）への緊急患者の搬送時間が短縮されます。また、現道の線形不良区間を回避することにより、安定した搬送が可能となり、患者への身体的な負担の軽減が期待できます。

■すさみ町江住から南和歌山医療センターまでのルートと時間短縮



紀勢線（田辺～すさみ）が整備されると、搬送時間が大幅に短縮されることが予想されます。

※H22年道路交通センサスにより算出

